

採用企画「アチェ復興支援絵画・写真展開催とアチェの子供たちとの交流」

(代表者 大柿 亮裕)

企画概要

スマトラ沖地震で被害を受けたインドネシア共和国ナングロ・アチェ・ダルサラム州の復興支援活動として、アチェの現状を伝える報道写真展覧会、絵画展覧会を行う。

活動状況

<オープンキャンパスでの絵画・写真展(平成17年7月31日～9月18日)>

実施場所：神山ホール1F・2F および 12号館4階12405教室

(8月21日および9月18日は、12405教室のみ)

来場者数：7月31日(日) 425名

8月 1日(月) 311名

8月 2日(火) 360名

8月21日(日) 45名

9月18日(日) 70名

内 容： マフディ氏による津波をテーマにした絵画の展示(7点)

現地の小学生～中学生による津波をテーマにした絵画～(20点)

スランビ・インドネシアの記者による報道写真の展示(150点)



< 神山祭での写真展 (平成17年11月3日~6日) >

実施場所：5号館2階 5229演習室

来場者数：11月3日(木) 115名

11月4日(金) 96名

11月5日(土) 97名

11月6日(日) 133名

内 容：スランビ・インドネシアの記者による報道写真の展示(150点)

今後の予定

オープンキャンパスでの絵画・写真展で集まった募金を現地で役立ててもらうため日本赤十字社に送金予定。

阪神大震災の体験記「どっかんぐらぐら」の一部をインドネシア語に翻訳したものをスランビ・インドネシアに届ける。

スランビ・インドネシアが実施した津波体験に関する作文コンクールの入賞作品を日本語に翻訳し、出版に協力する。

感想

私たちは、昨年12月に起こったスマトラ島沖大地震で地震や津波で被害に遭われた方々に対し、今年1月から「募金活動」を通じて支援を行ってきましたが、今回は「日本の人々に現地の状況を知ってもらう」というコンセプトのもと活動してきました。

この活動を通じて、企画を実行することの難しさ、実行できたときの喜び、メンバーをまとめることの難しさなどいろいろなことを学び、経験することができました。

オープンキャンパスで同時開催した絵画・写真展については、大学関係者の方々やマスコミの協力があり成功したと言えます。

私たちの目的が少なからず達成でき、嬉しかったことはもちろんですが、その過程の中で貴重な経験をできたことのほうが私にとっては、嬉しかったことかもしれません。それは、自分ひとりの力だけでなく、メンバーの協力があるからこそいい仕事ができるのだと考えることができるようになった点です。

今まで私はリーダーであるということに捉われすぎて何でも一人でやらなければいけないと考えていました。しかし、準備に追われていたある日、先生から「君は、一人で何でもやりすぎだよ。人に任せてみることも必要だと思うよ。」と声をかけられました。

また、メンバーの一人も「言ってくれたら何でもするよ。」と同じように声をかけてくれ、その日から独り善がりな私の考え方は大きく変わりました。

実際に次の日から仕事を分担し、その仕事を担当するメンバーには内容を細かく説明し責任を持ってやってもらうようにしました。そうすると、今までの倍以上のスピードで仕事は進んでいきました。私は内容をチェックして時には仕事に参加しましたが、ほとんどメンバーが責任を持って取り組んでくれていました。私は、「なぜこんな簡単なことに今まで気づかなかったのだろう。」と今までの自分の行動を反省しました。少なくとも目的を果たせた喜びもありますが、私の悪い部分を直すいいチャンスになったことも事実です。

今回の活動を通して私だけでなくメンバーも貴重な経験をしたと思います。このような活動の場を与えてくださり、ありがとうございました。

最後になりましたが、この企画に携わっていただいたマスコミの方々、大学関係者の方々、インドネシア語専修の先生方、ご協力ありがとうございました。